

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立宇和島東高等学校 全日制・定時制
学校番号 (40)

評 価 実 施 日		令和7年2月18日(火)	
委 員	氏 名	所 属 等	備 考
	渡部 慎二	学校評議員、伊予銀行 宇和島支店長	
	一色 敏徳	学校評議員、愛媛新聞社 南予支社長	
	高田 哲也	株式会社 高田商店 代表取締役	
	田上 和昭	元県立高校 校長	
	田中 繁幸	ジブラルタ生命保険株式会社 営業次長	
	梶谷 宗範	宇和島市立城北中学校長	
	二宮 正行	P T A会長	
	芳谷 圭一	教育振興会長	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
1 今年度の最終評価について (1) 心身健康で豊かな心 ア ・長期欠席生徒への対応方法はどのようなものか。 イ ・読書として、デジタル書籍の活用についてはどう考えているか。 ウ ・「人権意識の高揚」項目の評価が少し下がっているようだが、大切なことなので教育の柱として進めていって欲しい。 エ ・生徒たちは気持ちの良い挨拶ができています。一方、地域で不自然な眉毛や髪型の生徒を見かけるので、やや心配しています。	1 今年度の最終評価について (1) 心身健康で豊かな心 ア ・個別の対応を行っている。生徒の心情や状況を聞き取った上で、教室に入りにくい生徒へのオンライン授業を実施したり、担任や学年主任等からの声かけや家庭訪問を行ったりしている。 イ ・古い本を廃棄することで新本を導入した。市内で書店が減少している今、図書館での本との出会いも大切にしているため、デジタル書籍については検討していないが、生徒が文章に触れる機会を増やせるよう、図書の整備を進めていきたい。 ウ ・毎月発行している人権だよりは、生徒だけでなく保護者も対象に配布しているが、保護者への啓発方法や内容を見直し、保護者の方が人権・同和教育に関する活動や取組に関わりやすくなるようにしていきたい。啓発だけで終わるのではなく、内容がどのように伝わっているかの確認を行い、より効果的な活動や取組にしていくことで、更なる人権意識の高揚につなげたい。 エ ・他校との情報交換の中で、校則の変更が過渡期にあることを感じている。本校としては、現在改修中の体育館が使えるようになることで、全体指導が行えるようになるため一貫性をもって指導したい。

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
(2) 探究心・実践力の育成 ア ・教科等横断型授業などを通して、生徒の自己実現力を高める教育活動が行われており、その成果も出ていると感じるが、生徒の反応はいかがか。 イ ・「学習習慣の確立」項目の生徒自己評価がDのため、生徒自身の頑張りに期待している。	(2) 探究心・実践力の育成 ア ・現在は実践に重きを置いて、校内すべての教員が教科等横断型授業を実践している。今後は実践に加えて、生徒の反応を調査し、質の向上も図っていきたい。 イ ・月曜の7限目に1・2年生はSRL（自己調整学習）の時間を取っており、そこで生徒自身が見通しを立て、自らの学習を振り返られるようにした。実現可能な見通しを立て、自己肯定観を高められるように今後も様々な取組を進めていきたい。
(3) 魅力ある学校 ア ・生徒会活動において、高校が中学と連携してくれることに感謝している。今年度あった、部活動での中学との合同練習が今後も続くとうありがたい。 イ ・生徒が地域に出ていく活動は、生徒が自分で考え、行動する機会を得られ、自己指導力の育成に効果が高いと考える。そのためにも時間的・精神的なゆとりが必要なので、無理のない計画が大切だと思う ウ ・STEAM教室の活用方法を教えていただきたい。 エ ・SSH事業で海外の生徒との交流が行われているが、さらに短期留学や海外生徒の受け入れなどのチャンスを生徒に与えて欲しい。 2 定時制について ・生徒の社会的な自立や進路希望を叶えるための様々な取組がなされ、その成果も上がっていると思う。今後も家庭事情なども汲み取り根気強く継続した指導をお願いしたい。 ・ナイトカーニバルが大変楽しかった。 ・中学時代不登校だった生徒が、入学してから順調に登校できているという話を職場の同僚から聞いた。手厚い指導をいただいていることに感謝している。 3 学校運営について ・大変愛校心の高い学校だと感じる。さらに地元愛、故郷への回帰を促進するためにも、卒業生同士や同窓会との交流を促進してほしい。 ・様々な場面で、地域貢献活動に取り組まれており、素晴らしいと感じる。 ・以前は閉ざされた学校というイメージがあったが、ボランティア活動や発信によって開かれた学校になっていると思う。	(3) 魅力ある学校 ア ・剣道部や吹奏楽部などは定期的に行っている。陸上競技部などが現在計画しているイベントもあり、もっと増やしていきたい。 イ ・今年度から商業科の課題研究「地域探究」もSSH事業として始まった。授業の枠を取ったことで時間的な余裕を持つことはできたが、部活動や学業とのバランスを取りながら計画を立案していきたい。 ウ ・ディベートを行う際に、壁四面をすべて使用して行うことができている。6台のプロジェクターを同時に運用することで、複数のテーマでチームごとに一斉にディスカッションを行えた。部活動やHR活動でも活用している。 エ ・SSH事業では、今年も愛媛大学の留学生を招き、生徒との交流を3回持つなどの国際交流事業を実施した。SSH事業以外にも、愛媛大学が実施されているShin-GS事業や愛媛県が行っているプログラムで本校生徒を海外に派遣した。海外生徒の受け入れとしては、ハワイ大学の学生2名が本校を訪れ、本校生徒との交流を持った。可能である限り、このような事業を今後行うとともに、情報の発信を積極的に行っていきたい。 2 定時制について ・不登校経験など、多くの問題を抱えた生徒の学び直しの場としての役割をしっかりと果たしていきたい。 ・就職希望者については、アルバイト経験や進路セミナー講習会等を通して、就労の意義を理解させ、地域の担い手として活躍する人材の育成を進めていきたい。進学希望者については基礎学力の定着を目指した授業の他、受験に対応できる学力を身に付けるための補習等にも力を入れている。 ・豊かな心の育成を目指し学校行事をさらに充実させ、社会性や協調性を身に付けていきたい。 ・学校や個人の評価目標を適切に設定し、その達成のための対策を適切に計画・実行していきたい。 3 学校運営について ・今年度は、同窓会が「夢プロジェクト」事業を始めていただき、同窓会と在校生との距離が縮まった。商業科におけるSSH事業も始まり、地域の卒業生とのつながりも生まれている。今後、より関係を強めていきたい。 ・地域貢献活動やボランティア活動の実践に加えて、ホームページやInstagramなどで情報の発信も行っている。これからも続けていきたいと考えている。